

Institute for Global Environmental Strategies  
Climate and Energy Area

**Evolving International Climate Regime  
and Developing Countries'  
Mitigation Actions**

Kentaro Tamura, PhD  
Area Leader/Principal Researcher  
Climate and Energy Area, IGES

23 July 2014

## 排出削減取り組みに関する先進国-途上国間の 差異の希薄化

### *Dilution of Differentiation in terms of Mitigation Initiatives*

	先進国/附属書I国 Developed countries/Annex I Parties	途上国/非附属書I国 Developing countries/Non- Annex I Parties
国連気候変動枠組条約 UNFCCC (1992)	政策策定と報告 削減努力目標 (non-binding reduction targets)	政策策定と報告
京都議定書 (1997) Kyoto Protocol	法的拘束力のある国別排出 削減目標 (legally-binding reduction targets)	CDMへの自主的参加 (voluntary participation in CDM)
バリ行動計画 (2007) Bali Action Plan	測定・報告・検証 (MRV) 可能 な国別削減約束 (Commitments)	測定・報告・検証 (MRV) 可能な 国内緩和行動 (NAMAs)
コペンハーゲン合意 / カ ンクン合意 (2009/2010) Cancun Agreement	2020年削減誓約の提出 (2020 pledges)	NAMAsの提出 (Submission of NAMAs)
ダーバン合意 (2011) Durban Agreement	全ての締約国に適用される2020年以降の枠組みの下で、各国 自らが決定する約束案 (INDC) を策定、提出することに合意 <sup>2</sup>	

## NAMA (Nationally Appropriate Mitigation Actions) とは？

### What are NAMAs?

- 途上国が、持続可能な発展の文脈の中で行う、自主的な取り組み  
*Voluntary mitigation actions in the context of sustainable development*
- 支援を受けて実施するものと、自前で実施するもの *Supported and unsupported*
- 2020年、成り行きベース (BAU) の排出からの削減を目指す *Aiming at deviation from BAU emissions in 2020*
- 各国がUNFCCC事務局への提出  
*To be submitted to the UNFCCC Secretariat*
  - 公式な文書として取りまとめられる
  - NAMA登録簿 (レジストリ) への登録
- 測定・報告・検証 (MRV) の対象となる  
*Subject to MRV*
  - 隔年更新報告書 (BUR) に対する国際協議・分析 (ICA) により実施

高い柔軟性  
→ 多様性  
*Flexibility  
→ Diversity*

大枠が決定  
→ 国内体制の構築へ<sub>3</sub>

## NAMAの多様性 Diversity in NAMAs

- 55カ国と1グループが提出 *55 Parties and one group have submitted.*  
(2014年5月現在)
- 多様な形式 = 各国の国情を反映 *Reflecting national circumstances*

国別目標 Economy-wide targets				排出強度目標 (対 GDP) Intensity targets (against GDP)	ポリシーレベル Policy level	プロジェクト・レベル活動 Project level	環境整備 Enabling conditions
絶対値目標 (対基準年) Absolute targets (base year)	カーボンニュートラル Carbon Neutral	BAU 比目標 BAU targets					
アンディガアグループ モルディブ マーシャル諸島	コスタリカ カタール モルドバ	ブラジル チリ 韓国 <b>インドネシア</b> イスラエル キルギスタン メキシコ パプアニューギニア シンガポール 南アフリカ	中国 インド	アルジェリア アルゼンチン アルメニア ベニン ボツワナ ブルキナファソ カメルーン 中央アフリカ チャド クック諸島 コロンビア エジプト コンゴ コートジボアール エリトリア ガボン ガンビア ガーナ ギニア マダガスカル マラウイ モーリタニア モーリシャス ペルー サンマリノ スワジランド シエラレオネ トーゴ チュニジア	エチオピア モロッコ カンボジア エチオピア ヨルダン モンゴル マケドニア	アフガニスタン グルジア タジキスタン	
3	3	10	2	27	6	3	4

出典: Fukuda and Tamura (2012)

## MRVの多様性 *Diversity in MRV*

- MRVの対象レベルや測定対象により、制度の成熟度、特長は異なる(下図)

*Different institutional maturity and characteristics*

- 目的の違いによっても、求められる精度レベルが異なる

*Different requirement of accuracy, developing on the purpose of MRV*

レベル	対象	制度としての運用実績、特徴
組織レベル	<ul style="list-style-type: none"> <li>制度対象となる組織単位からのGHG排出量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>EU-ETS、GHG報告制度などの個別制度に対応したMRV手法は確立</li> <li>国際基準(ISO規格)も存在。ただし、具体的な方法論、個別の運用則は制度毎に開発が必要</li> </ul>
プロジェクト・レベル	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別プロジェクトの実施によって実現されたGHG削減量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CDMなどの個別制度に対応したMRV手法は確立</li> <li>国際基準(ISO規格)も存在。ただし、具体的な方法論、個別の運用則は制度毎に開発が必要</li> </ul>
政策レベル	<ul style="list-style-type: none"> <li>国・準国家単位での政策によって実現されたGHG削減量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際的に認知された基準、ガイドラインは存在しない</li> <li>更なる、研究が必要</li> </ul>
国・準国家レベル	<ul style="list-style-type: none"> <li>国・準国家単位でのGHG排出量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>排出目録(インベントリ)に関するIPCCガイドライン</li> </ul>

出典:二宮(2013)より抜粋

## まとめとセッション概観 *Conclusion and Session Overview*

- NAMAs: 国情を踏まえた、多様な形式が可能

- 国家発展計画、持続可能な発展計画との連携

*Linkage with National Development Plans to ensure NAMA reflect national priorities*

- 個別の施策に落とし込む → 担当官庁の主体的関与の重要性  
官庁間の調整の必要性

*Commitment and coordination among line ministries*

→ Vinda氏発表(環境省の資源効率、環境技術の観点からの取り組み)

- MRV

- 個別制度に応じた具体的体制を議論・構築する必要性

*Concreate MRV systems in line with specific policy purpose of NAMAs*

- インドネシアの例: RAN-GRK/RAD-GRKIに対するMER(Monitoring, Evaluation and Reporting)ガイドライン(2013)

→ Rizaldi氏発表(具体的な体制設計や実施上、何が課題か?)

→ 藤田氏発表(先駆的アプローチ)

6